

本 会 記 事

I. 平成 21 年度第 1 回臨時評議員会議事録

日 時：平成 21 年 11 月 28 日（土）12:00～15:00

場 所：女子栄養大学 生涯学習センター 3F 会議室

評議員出席者：秋光和也，雨宮良幹，有江 力，畔上耕兒，

日比忠明，曳地康史，廣岡 卓，百町満朗，池上正人，

稲垣公治，石黒 潔，石井英夫，川北一人，近藤則夫，

草刈眞一，眞山滋志，森田健二，生井恒雄，夏秋啓子，

夏秋知英，大木 理，大島一里，奥田誠一，奥野哲郎，

尾谷 浩，佐野輝男，高橋賢司，竹中重仁，寺岡 徹，

土屋健一，柘植尚志，露無慎二，米山勝美，吉川信幸，

白石友紀会長，上田一郎副会長，築尾嘉章幹事長

幹事出席者：桑田 茂副幹事長，篠原弘亮会計幹事，

川上 顕庶務幹事，佐々木信光庶務幹事，佐藤 衛庶務

幹事

1. 審議事項

(1) 学会 100 周年記念事業について（白石会長）

各地域の常任評議員からなる準備委員会の設置についての提案があり，承認された。委員長は難波成任氏に決定した。

(2) 平成 22 年度功績者の推薦について（日比功績者推薦委員長）

名誉会員候補者（甲元啓介氏），永年会員候補者（野津幹雄氏，丹田誠之助氏，久保 進氏，吉野嶺一氏）が候補者として推挙され，承認された。

(3) 論文賞の選考（奥野編集委員長）

以下の 2 編が最終論文賞候補として推薦され，承認された。

① T. Nakajima, M. Yoshida and K. Tomiura: Effect of lodging on the level of mycotoxins in wheat, barley, and rice infected with the *Fusarium graminearum* species complex. *JGPP* 74(4) 289-295 (2008)

② H. Hamada, H. Matsumura, R. Tomita, R. Terauchi, K. Suzuki and K. Kobayashi: Super SAGE revealed different classes of early resistance response genes in *Capsicum chinense* plants harboring L3-resistance gene infected with Pepper mild mottle virus. *JGPP* 74(4) 313-321 (2008)

(4) 学会賞及び学術奨励賞の選考（白石会長）

両賞について本日午前に行われた賞選考委員会での最終選考結果が披露され，学会賞は，次の 3 氏に受賞することが推挙，承認された。（ABC 順）

・有江 力氏「土壤伝染性フザリウム菌の発病機構と分子系統解析に関する研究」

・小泉信三氏「イネいもち病抵抗性の持続的利用に関する生態学的・遺伝学的研究」

・大木 理氏「キュウリモザイクウイルスの感染動態に関する研究」

また，同様にして学術奨励賞は，次の 3 氏に受賞することが推挙，承認された。（ABC 順）

・平田久笑氏「カンキツ病原体の病原性発現機構に関する分子生物学的研究」

・石橋和大氏「トマト *Tm-1* 遺伝子とトバモウイルスの宿主特異性に関する研究」

・斎藤憲一郎氏「イネいもち病の付着器形成に関する分子生物学的研究」

なお，本年度は両賞とも 3 位が同票であったため決選投票を行ったことが示され，このような場合の選考方法についてマニュアル等への明記を行うことが提案され，承認された。

(5) 年次大会（京都）における特別講演（白石会長）

オーストラリア植物病理学会（APPS）から，Dr. Caroline Mohammed 氏に特別講演をして頂くことが紹介された。

(6) 年次大会（京都）における学生優秀発表賞の評価票の改正案について（川上幹事）

前年までの問題点を改善するため以下の修正案が提案され，承認された。

・専門分野に近い人が審査を担当する。

・審査員の配分が困難になることから，賞選考委員を必ずしも評価グループに入れる必要はない。

・評価基準について若干手直しをし，採点に基づき審査担当者が順位付けを行い，順位点により受賞者を決定する。

(7) 年次大会（京都）における託児所設置について（築尾幹事長）

大会期間中，託児所を設置することが提案された。完全委託制とする。HP で掲載し，利用希望者については完全予約制とすることが承認された。利用料については今後検討することとした。

(8) 植物保護会議（植物健康管理会議）の企画および開催協力資金負担（築尾幹事長）

学術会議に植物保護関係の分科会がなかったため，旧植物防疫研連の復活ともいえる植物保護会議の設立が提案さ

れ、その第一段として植物防疫シンポジウム（12月2日）の企画が提案され承認された。また協力資金負担（10万円）についても承認された。また、本シンポジウム開催前の打合せには寺岡 徹評議員、夏秋啓子評議員、築尾嘉章幹事長が出席することとなった。なお日本植物病理学会からのシンポジウムの演者は岩波 徹氏（農研機構果樹研究所）。

(9) 2011年 IUMS 札幌におけるシンポジウム企画及び海外招聘者費用負担（築尾幹事長）

35万円の費用負担について承認された。また、個別に連絡が行っているようであり、詳細な情報は日本植物病理学会にはまだ来ていないことから、協力して情報収集に努めることを確認した。

(10) 国際植物病理学会カウンシルメンバーの選定（お願い）（築尾幹事長）

従来のものであることから、次回の評議員会までに決定することを確認した。

(11) 常任評議員会内規の制定について（築尾幹事長）

拡大常任評議員会の定義付けについて提案され、承認された。

2. 報告事項

(1) 平成22～23年度評議員選挙結果の報告

平成22～23年度評議員選挙の結果、45名の評議員が選出されたことが報告された。

(2) 平成22年度副会長選挙・会計監査委員選挙結果の報告

平成22年度副会長選挙の結果、難波成任氏が選出されたことが報告された。また、平成22年度会計監査委員選挙の結果、雨宮良幹氏、有江 力氏、夏秋啓子氏が選出されたことが報告された。

(3) 平成21年度日本農学進歩賞受賞の報告

日本植物病理学会からは木原淳一氏が受賞し、11月25日に授賞式が執り行われたことが報告された。

(4) 平成22年度日本農学進歩賞候補者の募集

次年度の推薦にあたっては年明け早々にも推薦依頼を行うことを報告した。

(5) 平成21年度大会、部会報告

築尾幹事長より報告がなされた。

(6) 平成21年度研究会・談話会開催報告

築尾幹事長より報告がなされた。

(7) 第5回教育プログラム報告

百町評議員より報告がなされた。

(8) 編集委員会報告（奥野編集委員長）

海外からの投稿がほぼ50%となっていること、カード決済のできない場所があることから新たなシステムに変更

していくことが報告された。

(9) 技術士対応委員会（7/23, 桑田副幹事長）

委員会で提案された「資格取得の勧め」の学会ニュースへの掲載について提案がなされ、承認された。

(10) 科研費申請状況（篠原会計幹事）

11月11日に申請書類を提出し、受理されたことが報告された。

(11) 日本植物病名データベース（更新版を含む）の完成
築尾幹事長より報告がなされた。

(12) オーストラリア植物病理学会との協定締結（9/29）

白石会長より報告がなされた。

(13) 日韓合同シンポジウム（10/29～31）の報告

桑田副幹事長より報告がなされた。日本側の出席は99名であった。また、今回は協定上2011年日本開催の予定であるが、2011年は国際会議が集中するため、現時点では未定としていることが報告された。

(14) 他法人主催会議への出席

以下の通り出席の報告がなされた。

- 学協会の公益法人制度への対応の現状と課題（5/30, 日本学術会議）
- 日本農学会運営委員会（9/18, 東大）
- 第5回日本微生物学連盟会議（10/8 日本学術会議）
- 日本農学会80周年記念式典（10/9 東大）

(15) 学会会計の中間報告について

8月7日に外部監査を受け、特段の指摘はなかったことが報告された。また、会費の未納者が多いことも報告された。

(16) 平成22年度大会（京都）準備状況報告

奥野大会委員長より、まもなくHPが開設されることが報告された。築尾幹事長からは、今回から全ての研究会・談話会等から開催予定についての連絡をもらうようにしたことが報告された。

また、研究会・談話会等を会期の中に組み込めないかとの意見が出され、検討事項となった。

(17) 平成23年度大会の開催について

平成23年度は南関東地区（農工大）で開催することが承認された。

(18) 男女共同参画協会連絡会活動状況報告

特になし。

(19) 会員のご逝去

井澤弘一氏、田盛正雄氏、牛山欽司氏、岩切ふかし氏のご逝去が報告された。

(20) その他

- 奥野大会委員長・編集委員長より、講演要旨のスタイルについて、他学会とそろえるかどうかとの提案がな

- され、大会委員長・編集委員長に一任することとした。
- 若手研究者の国際集會派遣に国際学術交流基金を使用し、募集するのではなかったかとの意見が出され、前向きに検討していくこととした。
 - 研究会・談話会等については、会計報告を提出するべきとの意見が出された。

II. 平成 21 年度第 3 回日本農学会運営委員会議事録

日 時：平成 21 年 12 月 11 日（金）15 時～16 時 30 分

場 所：東京大学農学部 3 号館 4 階 大会議室

出席者：鈴木昭憲会長、日比忠明副会長、大熊幹章副会長、山根健治（園芸（代））、白木克繁（砂防）、吉迫 宏（シス農）、窪野高德（樹医）、中嶋政敏（植調）、石橋整司（森計）、高橋輝昌（森立/農作（代））、伊藤純一（育種）、西尾俊幸（応糖科（代））、岩淵喜久男（応動昆）、桑山岳人（家禽）、近藤秀裕（魚病（代））、阿部 淳（作物（代））、勝間 進（蚕糸（代））、黒川俊二（雑草（代））、山下修一（芝草）、桑原正貴（獣医）、築尾嘉章（植病）、仁多見俊夫（森林）、山川 卓（水産）、石神清弘（生環工（代））、今川和彦（畜産）、石川 明（動遺育）、中西友子/八木一行（土肥）、妹尾啓史（土微）、真田篤史（熱農（代））、長澤寛道（農化）、山内啓太郎（繁殖）、大倉利明（ペドロ）、斎藤幸江/藤原 健（木材）、芋生憲司（農機）、川越義則（農施）、塩沢 昌（農村工）、大黒俊哉（農計）、中田了五（林育）、松本 宏（学著協監事）、黒住圭子（事務局）

欠席者：河鱈実之（園芸）、工藤貴史（魚経）、五味高史（砂防）、土田志朗（実農）、高島一昭（動臨）、中園幹生（育種）、加藤 茂（海水）、三簾久夫（国地開）、松村一膳（砂丘）、遠矢幸伸（獣医）、篠原健司（森林）、濱田奈保子（水産）、酒井久治（水工）、石川尚人（草地）、金子忠一/伊藤 弘（造園）、小澤壯行（畜産）、富士原和宏（気象）、高橋克也（農経営）、青柳 斉（経済）、西山 真（農化）、米山弘一（農薬）、大島誠之助（ペット）、中村典裕（農情）、中嶋 勇（農村工）、信田 聡（木質）、駒木貴彰（林経）、議長：鈴木会長

議 題：

1. 平成 21 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録（案）の承認について
2. 平成 21 年度事業報告（案）
 - (1) 日本農学会創立 80 周年記念式典の報告
 - (2) 平成 21 年度シンポジウムの報告および出版関連
3. 平成 21 年度収支決算報告（案）

4. 平成 22 年度事業計画（案）
 - (1) 平成 22 年度シンポジウム実施計画案
5. 平成 22 年度収支予算計画（案）
6. 平成 22 年度評議員会について
7. 平成 22 年度評議員・運営委員・常任委員について
8. 平成 22 年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順
9. その他
 - (1) 「事業仕分け」対象事業についての要望書
 - (2) 会長・副会長推薦依頼について
 - (3) 学術著作権協会より
 - (4) 退会届
 - (5) 公益法人化問題について
 - (6) その他

始めに会長より創立 80 周年記念式典・祝賀会へのご協力のお礼があった。

議事 1. 平成 21 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録（案）の承認について

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

議事 2. 平成 21 年度事業報告（案）

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

- (1) 日本農学会創立 80 周年記念式典の報告

白木庶務担当常任委員より、式典 152 名・祝賀会 135 名の方々に出席いただき盛会に開催できた旨報告があった。

- (2) 平成 21 年度シンポジウムの報告および出版関連

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

議事 3. 平成 21 年度収支決算報告（案）

吉迫会計担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

議事 4. 平成 22 年度事業計画（案）

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

- (1) 平成 22 年度シンポジウム実施計画案

仁多見企画担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

議事 5. 平成 22 年度収支予算計画（案）

吉迫会計担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

80 周年記念事業特別会計は今年度で終わり、次年度の会計は通常会計になる旨報告された。

会長より会員数の減少について、各学会が若い研究者に入会してもらうためにそれぞれ考えなければならない時期にきている、何か新たな提案があれば出していただきたい旨お願いがあった。

議事 6. 平成22年度評議員会について

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり了承された。

議事 7. 平成22年度評議員・運営委員・常任委員について

白木庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり、平成22年度常任委6名のうち3名を前年度に引き続き日本獣医学会、日本森林学会、日本水産学会から、新たな3名を樹木医学会、植物化学調節学会、森林計画学会から、それぞれ出して貰うことで了承されたが、決定は時期執行部による旨説明された。

会長より常任委員として協力をお願いがあった。

議事 8. 平成22年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順（資料8）

50音順に抽選を行い、次の通り確定した。

1. 日本土壌肥料学会
2. 日本農芸化学会
3. 日本獣医学会
4. 日本応用糖質科学会
5. システム農学会
6. 日本農薬学会
7. 日本水産学会
8. 日本畜産学会
9. 日本生物環境工学会
10. 日本繁殖生物学会
11. 植物化学調節学会
12. 日本森林学会
13. 日本作物学会
14. 日本木材学会
15. 日本育種学会

議事 9. その他

(1)「事業仕分け」対象事業についての要望書

桑原庶務担当常任委員から資料に基づき説明が

あった。各学会からだされた要望の明細を添付し早速提出することです承された。

(2) 会長・副会長推薦依頼について

白木庶務担当委員より、会長・副会長の推薦が1月8日切なので、各学会からの推薦のお願いがあった。

(3) 学術著作権協会より

松本宏先生より、「著作権講演会」の開催について資料に基づき説明があり、多くの学会員の参加のお願いがあった。

(4) 退会届

白木庶務担当常任委員より、漁業経済学会、動物臨床医学会の2学会から退会届けが提出された旨報告があった。

なぜ退会するのか理由を聞いて、今後の運営に反映すべきなのではないかとの意見が出された。

(5) 新公益法人化問題について

鈴木会長より今期で新公益法人対応委員会は終了とする旨報告があり了承された。長澤先生より、法人化問題の現状について説明があった。

(6) その他

日本農学賞選考方法について

白木庶務担当常任委員より懸案事項として次期の執行部へ申し送ることが報告された。

以上